

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわ ECO だより

品川区環境情報活動センターだより

2011年度 Vol.1

ECOフェスティバル

2011

5月15日(日)、快晴で強い日差しのもと、さわやかな風が吹き、最高のECOフェスティバル日和になりました。今年もしながわ中央公園をメイン会場として‘しながわECOフェスティバル2011’が華やかに開催されました。

濱野区長の挨拶の後、資源リサイクル活動等を推進してきた25団体に対し感謝状と記念品が贈呈されました。



●模擬店&マイ箸運動の推進

焼きそば、カルビ丼や飲物などが販売され、昼食時には長蛇の列ができていました。会場では割り箸の無料配布はなく、国産間伐材・端材からできた割り箸を1膳10円で販売しました。この売り上げは東日本大震災復興の義援金とすることになっています。

●くらしを守る青空市

品川区共同購入実行員会主催による恒例の青空市です。「新鮮なもの・安全なものを即売！」ののぼりがお客さんをお呼び、野菜や果物が昼前に完売となりました。



●ステージアトラクション

環境「ほっ」とバラエティ(お茶犬・HORIPRO)、eco実験パフォーマンス(らんま先生)、和太鼓演奏(大井権現太鼓保存会)



●ごみ、資源回収

エコ容器、もやすごみ、びん、か、ペットボトル、陶器・ガラス・金属ごみなどが、高校生のみなさんの協力によってきれいに回収されていました。



Love&Peace(少年少女合唱団・83運動みんなで歌おう)、ECOな音楽・吹奏楽!(品川区民吹奏楽団)、創作竹楽器演奏(東京楽竹団)など、各種アトラクションが観客の盛んな喝采を浴びていました。



ECOフェスティバル2011

●太陽エネルギー見本市

太陽光(熱)利用機器システム、高効率機器、住宅版エコポイント、区・都・国の補助制度それぞれの紹介や住まいの省エネ相談コーナーがあり、相談や熱心な話し合いが行われていました。ソーラークッカーなど様々な設備を多くの方が興味深そうに見ていました。



●「エコな車」乗車体験

水しか排出しない静かな次世代エコカー「燃料電池車乗車体験」がありました。燃料電池は、水の電気分解とは逆に、水素と酸素を反応させることにより電気を取り出し、その電気でモーターを回します。また「人力車乗車体験」もあり、親子が楽しそうに乗車していました。



公園会場における使用電力はすべて自家発電で賄われました。

●手作り環境工作教室：「ソーラーモンキー」

太陽光発電で動く「サル」のキットを組み立てて作りました。子どもたちは先生に作り方を聞きながら一生懸命作っていました。クリーンエネルギーである太陽光発電が体験できたことと思います。



●環境セミナーの開催：

「知ってトクするエコな住まいづくりと住まいかた」

エネルギーを節約しながら快適な生活を過ごすためのノウハウを学びました。親子連れで来られる方やメモを取られる方など、皆さん熱心に聴いていました。



品川区の「木・花・鳥」

今回は「カエデ」をご紹介します

前回の「シイノキ」と同じく、「カエデ」はこの仲間の総称で、別名は「モミジ」。江戸時代、南品川の海晏寺(かいあんじ)は、モミジの名所として有名でした。品川歴史館には、海晏寺のモミジ狩の浮世絵があります。(海晏寺は現在、非公開です)

「カエデ」が品川区の木に選ばれた理由は、モミジの名所によるものでしょう。モミジを愛でる風習は平安の頃に始まったそうです。

「カエデ」という名前は、葉の形が「カエルの手」に似ていることから付きました。赤ちゃんの、小さくてかわいらしい手を「モミジのような手」と形容します。5から7つに分かれた葉を「いろはにほへと」と数える遊びがあり、そのため「イロハモミジ」という名が付いたといわれます。「モミジ」といったら、この種を指します。



イロハモミジ 花 (4月)



種 (5月)

モミジの花を見たことはありますか。4月半ば、花が盛りでした。葉の陰に赤く伸びた糸。その先に雄花と雌花が下がっています。秋に種が実ると、竹トンボのように飛んでいきます。種の周りには薄いつばさ状のものが付いています。ひらひら舞って、着地したところで、芽を出し、仲間を増やします。

モミジの仲間には園芸種もたくさんあります。芽吹きするとき赤い葉を出すもの、一年中赤い葉のもの、斑があるもの、葉が細く裂けているもの、とさまざまです。品種は交配ではなく、枝の変異を選んで作出したもので、種子をまいたら元の木に戻るといいます。本当かどうか、試してみる価値はありそうです。



しぎたつさわ
園芸種：鳴立沢



紅枝垂

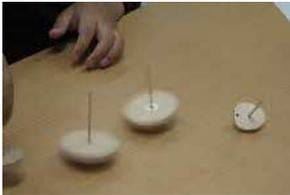
(環境カウンセラー 倉田智子氏提供)

環境学習講座（於：品川区環境情報活動センター）

エコで不思議なこま作り

5月22日（株山武 門倉 誠氏ほか）

こまの材料は廃棄されることになる木片を使用します。木片にキリで穴を開け、軸芯を通しますが、よく回るこまを作るコツは、木片の重さの中心に穴を開けることです。誰のこまが長い間回るかを競争しました。



後半はよく回るようになったお手製のこまに模様を描いた円形の紙を乗せてみます。黒のサインペンだけで描いた絵が、



回転によって黒以外の色が見えるような気がします。柄や回転の速さによっても見え方が違い、緑っぽかったり赤っぽかったりします。半分を黒く塗って、残りの部分に模様を描くと色が見えやすいそうです。科学的に完全には説明されていないのだそうですが「ベ

ンハムのこま」という現象です。

綺麗な回転模様のこまを選び、NO.1は投票で決めました。工作を通して勉強ができ、みんなで競争を楽しむことができたことと思います。どこが「エコ」だったか、気づいてくれたかな？



おすすめBOOKS

夏休みの自由研究にチャレンジしよう

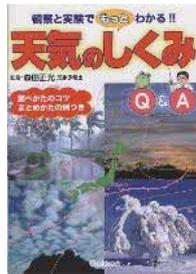


天気のおもしろい Q&A

〈対象〉小学生（中学年）～
天気や気象のふしぎが
かんたんにわかる本です。
雲、夕焼け、雪の結晶など
をつくる実験や降水量をは

かったり、場所による気温の違いを観察するなど、どれも試してみたい内容です。

監修：森田正光 発行所：株学習研究社
定価：本体950円(+消費税)



環境問題を考える 自由研究ガイド

〈対象〉小学生高学年～中学生

ペットボトルを使って燃料電池を作る、ミトマの水耕栽培、古い天ぷら油で環境にやさしい石けん作りなど、環境問題をテーマにした自由研究です。

編者：エコ実験研究会

発行所：東京書籍(株)

定価：本体1,300円(+消費税)



‘すまいるスクール’で環境学習

環境省は、子どもの放課後の環境教育プロジェクトとして環境教育プログラムを作成し、子どもたちが環境のこと、資源のことを遊びながら学ぶことができる教育キットを作成しています。

このプログラムには、環境にやさしい買い物ゲーム「エコチョイス」、生物多様性を考えさせる「カードゲームbidi」、ジグソーパズルで環境にやさしい社会



を考える「E☆カプセル」など6種類のプログラムが用意され、環境カウンセラーが講師となって指導に当たっています。

品川区では昨年度は18校の区立小学校の‘すまいるスクール’で講座を行い、子どもたち

の環境教育に役立ちました。写真は子供たちが協力合って「E☆カプセル」を一生懸命組み立てているところです。

「現在小学1年生～4年生に対して環境教育を行っています。

この教育により子どもたちに環境マインドが身についていくものと確信します。今後も‘すまいるスクール’の指導員の方と協力しあって、環境学習の機会を増やすとともに質を高めていきたいと思っています」と講師の酒井康一さん（環境カウンセラー／NPO法人エコタウンしながわ副理事長）はおっしゃっていました。

‘すまいるスクール’とは、品川区立小学校の施設を活用した全児童放課後等対策事業です。



太陽光・風力発電照明灯

東品川海上公園にある太陽光・風力発電照明灯で、この照明灯は風力と太陽光によるエネルギーを電気に変えて点灯します。風力をサボニウス形風車（垂直型風車：円筒を縦に2つに切つないだ形）でとらえて発電し、太陽光は太陽電池パネルで受けて発電し、バッテリーに一旦蓄えます。夜間暗くなるとLEDが点灯します。電力会社の電力が停電してもこの照明灯は大丈夫です。



環境記者活躍中

環境記者の小野さんは会社の有志でボランティアチームを結成し、公園の清掃美化活動に参加しています。現在は聖蹟公園内の花壇において、年4回季節に応じて花の植替えをし、また適宜水撒きをしながら花壇を管理しています。

「この日は春の日差しが暖かく、お花も心地よさそうに見えました。少しは景観に貢献しているとうれしいんだけど」と記事に書いてくださいました。



環境用語 ゼロ・エミッション

ゼロ・エミッションとは、産業活動等により排出される廃棄物や副産物を他の資源として活用し、その結果として廃棄物を生み出さないシステムを指さすという考え方です。

しながわ区民公園で行われているゼロ・エミッションの取り組みをご紹介します。公園内で出た剪定枝や枯れ木、倒木などを小型破砕機で細かく砕きます。



これらや落ち葉に発酵材を混合して袋に詰め、約6カ月かけて発酵させ、堆肥にします。

公園内の樹木の周りなどに施すと地力がつき、花壇に撒くと綺麗な花を咲かせることができます。また堆肥

は区民に無料で配布もしているとのこと。配布についての詳細はしながわ区民公園にお尋ねください。TEL 03(3762)0655

環境記者募集中

環境情報活動センターでは区民「環境記者」を募集しています。

花の開花情報、地域の環境イベント情報など、身近な環境情報をメールなどでお寄せくださる方を環境記者として登録します。いただいた記事や写真は環境情報活動センターのホームページなどに掲載します。区内在住、在勤、在学で環境に興味のある方のご応募をお待ちしています。詳細は環境情報活動センターまで（TEL 03-5742-6533）

品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

夏休み前・小学生向け環境講座

●うすく削った間伐材を使ってエコ工作をしよう（小学生）

森にすむ動物やその生態を知り、間伐材で鞠(まり)の形になる「球体」などを作ります。

日時／7月3日(日)14時～16時

●牛乳パックでポンポン蒸気船を作ろう（小学生）

牛乳パックを利用して水蒸気ので水面をスイスイ走る蒸気船を作ります。

日時／7月17日(日)14時～16時

8月の環境講座

●パンダと私たち～動物園での野生化を学ぶ（小学生以上・一般）

絶滅危惧種に指定され、中国の国家一級保護動物であるパンダについて、もっと知りましょう。

日時／8月25日(木)14時～16時

夏休み子ども環境講座

①生きもの博士になろう

自然とのふれ合いから生きものについて楽しみながら学び、エコな作品を作ります。

日時／7月26日, 28日, 30日

(13時30分～15時30分)

②キッチンからはじめるエコロジー

身近な食を通して、楽しみながら環境について学びます。買物・調理・片付けなどすべての内容で環境に配慮した料理を作ります。

日時／8月10日, 11日, 12日

(14時～16時)

①②共通

対象／小学生

(3年生以下は保護者同伴)

講座の名称はいずれも仮称です。応募方法等については「広報しながわ」や「品川区環境情報活動センター」のホームページに後日掲載します。

しながわECOだより2011年度Vol.1

発行：品川区都市環境事業部環境課

編集：特定非営利活動法人
エコタウンしながわ

発行日：平成23年6月22日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

品川区環境情報活動センター 秋の講座ご案内

●鉢植えのクロッカスを楽しみましょう (一般)

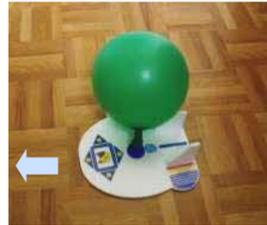
常緑で冬場も楽しめるシルバーリーフのコットンラベンダーとクロッカスの寄せ植えをします。

日時/10月1日(土)14時~16時

講師/奥 峰子 (園芸文化協会理事)

●自然エネルギー「空気」を使って実験しよう (小学生)

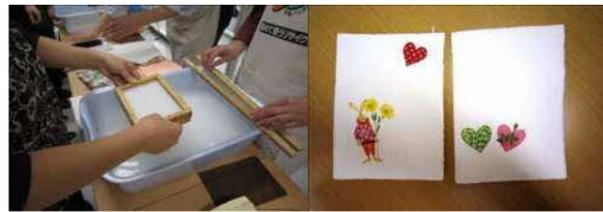
空気のでんごんがでるか、ホバークラフトづくりと実験を通して学びます。ペットボトルや段ボールなどを使った家庭でできるリサイクル工作もします。



日時/10月2日(日)14時~16時

講師/小蔦陽子 (学研科学インストラクター)

●牛乳パックで「はがき」を作ろう (一般)



牛乳パックの原料である森林資源や紙パックのリサイクルの仕組みを学び、手すきのはがき作りを体験します。

日時/10月7日(金)13時半~16時

講師/全国牛乳パックの再利用を考える連絡会

●秋の寄せ植え (一般)

秋を彩る野菊とススキの寄せ植えです。11月初旬に開花予定のお花を使い、講習会後も製作品の観賞を楽しんでいただけます。

日時/10月28日(金)13時半~15時半

講師/林秋江 (秋草会会員)

●実験とゲームで楽しみながら学ぶ「くらしと水」 (小学生)

私たちが意外と知らない水について「へー! そうなんだ」を勉強してもらいます。汚れた水をきれいにする実験を全員が行います。



日時/11月6日(日)14時~16時

講師/岡本正義 (日本環境協会子ども環境相談室)

●ハーブと草花のコンテナガーデン (一般)

香りを楽しめるハーブを入れた可愛いコンテナガーデンを作ります。

日時/11月18日(金)14時~16時

講師/原 由紀子 (生活園芸家)

●富士山の大自然と私たち (一般)



富士山とそれを取り巻く環境についての話です。美しい富士山の環境と自然を守りましょう。

日時/11月27日(日)14時~16時

講師/外川英樹 (自然・動物写真家)

●エコなLEDを使ってクリスマスカードをつくろう (小学生)



LEDを使ってわたしへのクリスマスカードを作ります。

日時/12月4日(日)14時~16時

講師/水野さゆり (子供向けワークショップ「イモ」代表)

講座の名称、開催日、内容などはいずれも予定です。応募方法等については「広報しながわ」や品川区環境情報活動センターのホームページに掲載します。

しながわECOだより2011年度Vol.2

発行: 品川区都市環境事業部環境課

編集: 特定非営利活動法人

エコタウンしながわ

発行日: 平成23年9月22日

住所: 〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX: 03-5742-6533

E-mail: center@shinagawa-eco.jp

HP: http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています



‘生きもの’って 知れば知るほどおもしろい

2011年度 Vol.2

夏休み子ども環境講座~生きもの博士になろう~

NPO法人生態教育センター 村松亜希子氏

(平成23年7月/品川区環境情報活動センター) を参考

●五感(ここでは「見る」と「聞く」)を使って

木や葉っぱに隠れている虫がいますが、かれらは木や葉っぱと同じような色(保護色)をして敵から身を守っています。例えば木の皮と同じような色をしたセミがいます。右の写真のように見分けがつかせません。



「あの鳴く木を本国に持ち帰りたい」と言った外国人がいたという逸話もあり

「ふ〜ん ♪」
また草むらにいるバッタの体が緑色をしているのは、みなさんよく知っていますね。

夏の虫と言えばセミですが、わかりますかセミの名前と鳴き声。



アブラゼミ



ミンミンゼミ



クマゼミ

いきものみつけ <http://www.mikke.go.jp/>

環境省が実施する市民参加の生きもの調査です。

セミの鳴き声やセミの鳴きまねが聞けるコンテンツもあります。

このURLからセミの鳴き声や、つるの剛士さんのセミの鳴きまねを聞くことができます。

セミの名前は、その鳴き声からつけられているものがあります。「ジージリジリ…」はアブラゼミ、油であげものをしていような鳴き声です。「ミンミン…」はミンミンゼミ。「シャアシャア…」はクマゼミです。西日本でおなじみのクマゼミは、近年分布が北へ拡大していることが話題になっています。セミの幼虫は長い間土の中で生活し、その後小さな穴から地上に出てきて、木の幹などに登って脱皮し、成虫になります。

●私たちの近くにあるこんな不思議

Q. 「しながわ中央公園には、にぎりこぶしより大きいまつぼっくりがなる木がある」ホント?



A. 「○」しながわ中央公園にはヒマラヤスギがありますが、にぎりこぶしより大きなまつぼっくりがなる木です。

Q. 「木にはオス・メスがない」これホント?
A. 「×」例えばイチョウにはオスの木、メスの木があります。なお、ギンナンはメスの木にしかありません。

品川区役所前にイチョウ並木がありますが、その中にメスの木があり、時期によって特有のにおいがします。12月には黄金色のイチョウの葉が私たちの目を楽しませてくれるでしょう。

打ち水大作戦 しながわ2011

7/23(土)~8/23(火)

●7月23日(土)戸越公園駅前南口商店街(今年のメイン会場)で「打ち水大作戦・しながわ2011」が開催されました。早くから集まった子どもたちは、今や遅しと打ち水開始の「かけ声」を待ち、午後3



時、カウントダウンの後「しながわを涼しくしよう!」のかけ声とともに一斉に打ち水が始まりました。

●7月23日(土)西大井広場公園において、二葉中央商店会主催の第31回品川納涼祭の開催に先だって行われました。打ち水が終わった後「みんな、こ

夏の風物詩「打ち水」は江戸の昔から行われている暑い夏に涼をとる暮らしの知恵です。打ち水に水道水は使いません。雨水やお風呂の残り湯など再利用水を使用しました。



れからも雨水やお風呂の残り湯を使って水をまきましょう。約束してくださいか!」の言葉に、手を挙げて答えていました。

●8月6日(土)平和坂通り商店街でも打ち水が行われました。打ち水が終わったとき「少し涼しくなったような感じがするね」といった声が、あちらこちらから聞こえてきました。



長い夏を彩る花「サルスベリ」

暑い陽射しの中に、いつ見ても花がある木。名前は知っている、けれどいつも遠くから見るだけ、どれが一つの花なの?今回は「サルスベリ」をご紹介します。

サルスベリは中国南部原産の落葉樹で江戸時代に渡りました。「サルスベリ」という名は、猿でさえも滑ってしまいそうな、すべすべした幹に由来します。開花時期の長さは別名になっています。「百日紅」は「ヒャクジツコウ」と読み、100日も咲く紅い花という意味です。「ヒャクニチ・クレナイ」と発音すると、花が長い間きれいな色を保って咲いていることがわかります。



に放射状に広がります。この1つの花がたくさん集まって房状に見えます。一つの花がずっと咲いているわけではなく、

花一輪は花弁(花びら)6枚、一枚はフリルのように全体が縮れています。花弁のほとんどのほうは軸のように細くなり、めしべを中心



つぼみと葉っぱ

品川区内の公園では、しながわ区民公園、戸越公園、大井鹿島公園などで見られます

次々と花を咲かせるのです。「散れば咲き 散れば咲きして 百日紅(さるすべり)」(千代女)花色は写真のものが主流ですが、濃淡があり、また紫や白もあります。

近頃植栽に使われるようになった「シマサルスベリ」は白い花をつけます。琉球列島の固有種で、木はかなり高くなりますが、花はサルスベリより小型です。東南アジアに分布する「オオバナサルスベリ」には薬効があり、バナバ茶(フィリピン)として利用されています。

またほかにも別名「サルスベリ」と呼ばれる木があります。理由はサルスベリ同様すべすべした幹にあり、「リョウブ」「ヒメシャラ」が該当します。

花ばかりでなく、葉っぱは向き合っていたり(対生)互い違いに(互生)出て一括りにできないのが、この植物のおもしろさです。遠くから眺めるだけでなく、近くからも観察してみましょう。



戸越公園のサルスベリ

(環境カウンセラー 倉田智子氏提供)



環境記者活躍中

環境記者の中西さんと新居崎さんから、西中三丁目(西中延三丁目)町会で行っている資源回収事業について紹介いただきました。

私たちの町会では月に3回、新聞、雑誌、ダンボール、アルミ缶などの資源回収を行っています。朝早くから行っており、町会の皆さんの協力によって成り立っています。「回収へのご協力に感謝」



皆さまの地域で行われている環境活動についてのご紹介をお待ちしています。ご連絡は品川区環境情報活動センター(TEL 03-5742-6533)まで

環境記者の徳島さんは「品川・大井町 みどりと花を守る会」という団体を発足させて、鹿島塚児童遊園の清掃ボランティア活動をしています。月に2回程度の清掃活動ですが、季節ごとの落ち葉や日常ゴミの収集、煙草の吸殻等が実施する度、大きなゴミ袋3袋程度回収されています。今後は参加メンバーも増員して、もう少し大きなイベント等も実施したいと考えているとのこと。

【清掃前】



【清掃後】



環境問題は一人ひとりの実践から 今井学院 男の料理 (平成22年度しながわ環境賞受賞)

食生活において環境問題を考える教育を行い、かつ実際の料理に活かしている今井学院さん(品川区東五反田)の「今井学院男の料理」を訪問しました。

料理の前の買い物ですが、食材のストック確認と計画的な買い物、資源回収への協力は基本です。またできるだけ旬の食材を選ぶことは、美味しさ、栄養、CO2削減などのためにも良いことです。

さて今日の環境にやさしい料理メニューは「変り柳川鍋」(鶏むね肉、ごぼう、もめん豆腐ほか)、「ピーマンともやしの胡麻醤油かけ」、「ちくわと卵の吸い物」です。環境にやさしい工夫をしましょう。

豆腐が残ったときにはできるだけ水分を切って冷凍しておくことで高野豆腐になります。残ったもやしは豆腐の空容器に入れて冷凍庫に保管します。ただし2~3日で使い切りましょう。食べきれない量を

器に盛り、食べ残さないようにし、生ごみの減量に努めます。また使わないで残った食材は冷蔵、冷凍、あるいは保存食(漬物など)にしましょう。ごみは小さく切って嵩を減らし、絞って水分を少なくします。冷凍庫活用のコツは、残ったものを適量に分け、それぞれを少し離して袋に入れておくことです。そうしておくことで取り出しやすいですね。バナナは残ることがありますね。こんなときは皮をむいて切り、冷凍庫に入れておくことでシャーベットになります。

「この話は何度も聞いている環境を考えた料理のこつです」と言う今井先生ですが、生徒の

みなさんの耳にはタコが出来ているようです。このほか環境にやさしい料理についてのお話はたくさんありましたが、ここには書ききれません。

男の料理教室でしたが、中には包丁さばきも堂に入った「ベテラン」に属するみなさんの料理に取り組む姿に、元気がみなぎっているのを感じました。



品川区環境情報活動センター 冬の講座ご案内

●鉄道の開業と品川（中学生以上）



明治5年、新橋・横浜間に鉄道が開通しました。それに伴い鉄道周辺や品川宿に住む人々の生活環境が大きく変化しました。

日時／2月4日（土）14時～16時

講師／中野光将（品川歴史館学芸員）

●古帯でおひなさまを作ろう（中学生以上）



不要になった帯や着物を再利用して可愛らしいひな人形を作ります。

日時／2月12日（日）14時～16時

講師／竹中信子（アートディレクター）

●春のこども環境講座（小学生）

気象予報士から学ぼう～天気不思議と環境～



天気不思議と環境について、実験をしながら楽しく学びます。

日時／3月17日（土）ワタで雲の図鑑を作ろう

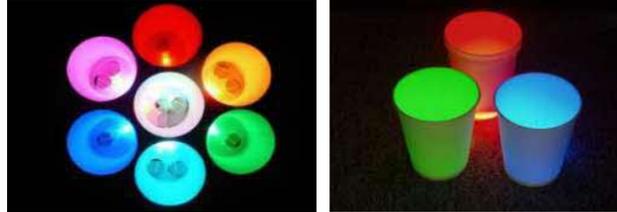
3月18日（日）雨量計を作ろう

3月20日（祝）霜柱実験器を作ろう

各回とも14時～16時

講師／気象予報士（気象キャスターネットワーク）

●‘光のジュース’で遊ぼう！（小学生）



赤緑青3色のLED（発光ダイオード）を使って、光と色の不思議を探検します。紙コップに入れた3色のLEDはまるで‘光のジュース’のようです。この‘光のジュース’を使って、光の合成実験を行います。

日時／2月26日（日）13時半～15時半

講師／久保利加子

（科学技術振興機構・理科大好きボランティア講師）

●春の寄せ植え（一般）



サギ草にベニチガヤを添えて寄せ植えをします。7～8月頃に開花予定の夏の花ですので、講習会後に花の観賞をお楽しみいただけます。

日時／3月9日（金）13時半～15時半

講師／秋草会会員

講座の名称、開催日、内容などはいずれも予定です。応募方法等については「広報しながわ」や品川区環境情報活動センターのホームページに掲載します。

しながわECOだより2011年度Vol.3

発行：品川区都市環境事業部環境課

編集：特定非営利活動法人

エコタウンしながわ

発行日：平成23年12月15日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2011年度 Vol.3

みどりと花のフェスティバル

「みどりと花のフェスティバル」がさわやかな秋空の下で開催され、さまざまなイベントが参加した人を楽しませてくれました。

●10月8日（土）、9日（日）しながわ区民公園

よく晴れ渡ったさわやかな秋晴れの下で、多くの親子連れなどが楽しい1日を過ごしました。

しながわ区民公園にはとち、しい、くぬぎなど多くの種類のどんぐりがあり、どんぐりと切り株は自由に持ち帰ることができました。また会場ではそれらを使った工作に人気がありました。



●10月15日（土）、16日（日）戸越公園

16日の東京の最高気温は30℃近くにもなり、秋とは思えないほどの暑さを感じる日でした。まぶしいほどの太陽に公園の木々や草花が輝いていました。

園内で育てた植木や草花がもらえるコーナーには来場者が列を作っていました。また植木、土、肥料の販売や盆栽、山野草の展示コー



ナーもあり、たくさんの方が見入っていました。肥料は業務用の特別配合品が販売され、便利に使いそうです。会場には屋台が並び、

椅子とテーブルもあって休憩や簡単な食事ができるようになっており、好天の下で自然に親しみながら環境を考える良い機会となりました。



●10月22日（土）、23日（日）東品川海上公園

いろいろな楽しいコーナーがあり、来場者は思い思いのコーナーに参加していました。

【ミッフィーの押し花作り】

ミッフィーなどを描いた台紙に公園の花で作った押し花を貼りました。

【ポプリ作り】

ハーブや香辛料などを使って手軽にできるオシャレなポプリを作りました。



【植物クラフト作り】



公園のどんぐり、剪定枝、葉っぱなどを使ったクラフト作りや、ススキを使ったフクロウ作りを体験しました。

【ステンシルでオリジナルカード作り】

プラスチックの薄い板に簡単なイラストの形がくりぬかれています（ステンシル）。白いカードにこのステンシルを当て、くりぬかれている部分に絵具を塗ると、ほら楽しい絵が描けました。これは飛行機の絵ですね。



〈東品川海上公園のつづき〉

【富山からのアイスチューリップ】

球根を冷蔵保存することで開花時期をずらし、一年中いつでもチューリップを咲かせることができます。公園内では紅葉と一緒に楽しめそうでした。



寄せ植えやガーデニングの紹介、苗・球根の販売、絵本や紙芝居などのコーナーがあり、参加者は東品川海上公園でのひとときを楽しんでいました。



絵に描いたようなアイスチューリップ

●10月29日(土)、30日(日) 西大井広場公園

広いグラウンドでは工作、寄せ植え、ミニ動物園、植木の販売、休憩所などのコーナーがありました。工作コーナーでは園内で折れた枝などを輪切りにしたものやどんぐりに色を付けたり、ポンドで貼ったりして思い思いの作品を作り上げていました。ミニ動物園のコーナーでは、動物にさわったり抱っこするなどして、命の大切さを学ぶ良い機会だったと思いました。



品川区内の公園で行われたこれらのフェスティバルでは、緑と花に親しみながらいろいろなイベントが体験でき、かつ環境も考えられる楽しい機会です。次回(来春)はぜひ参加してみませんか!

お正月を彩る植物 (センリョウ、マンリョウ)

松竹梅はどっしりと厳かに新年を飾ります。新たな年を祝い縁起物として、ほかに赤い実のなるものがあります。それらをご紹介します。

寄せ植えにヤブコウジ、生け花ではセンリョウ、植え込みにはマンリョウ、ほかに同じような風情の赤い実にカラタチバナやアリドオシがあります。昔はこれらを十両、千両、万両、百両、一両などと俗に呼んでいました。この段階的表現は、木の大きさや付く実の量、命名の由来や状態を表わしています。

つまり十両(ヤブコウジ)は百両(カラタチバナ)より小さく、万両は葉の下に垂れさがする実が千両より重いと発想したのです。アリドオシは一両といいながら、十両のヤブコウジより木は大きくなります。鋭いとげはマイナス要因、しかし格下げしてでも「有」という良い名を根拠に、赤い実の仲間に入れたのでしょう。

センリョウとマンリョウの違いは、実が上部につくのがセンリョウ(写真左)、マンリョウ(写真右)は葉の下につくので鳥に食べられにくいといえます。



他の木の実、ピラカンサやムラサキシキブなどが年の暮れには無くなってしまいう中、確かにマンリョウだけは立春を過ぎて実があります。鳥の落とし物から毎年芽生え、20年経過したものは1.5メートルを超えました。

シロミノマンリョウの実実は白いために「熟していない=食べられない」と鳥に認識されるので、一年経った今でもまだ残っています。

お正月に活かしたセンリョウの実をまきました。春に発芽し、なんと3年目に花が咲き、実が付きました。実付きが悪いと言われるのは梅雨のころ花が咲くため、花粉が雨に流されてしまうのです。栽培地では雨よけのため、覆いをすると聞きました。実は上につくため鳥に食べられやすいと言いますが、野外で自生を見ることはまれです。植木鉢で栽培は可能です。ぜひお試しください。

アリドオシはアカネ科、センリョウはセンリョウ科、ほかの3種はヤブコウジ科です。科が同じということは花の形が似ているということです。意外に思われるかもしれませんが、ヒトリシズカはセンリョウの仲間です。花の時期に観察してみましよう。

(環境カウンセラー 倉田智子氏提供)



環境記者活躍中

環境記者情報交換会

平成23年11月17日(木)、第16回環境記者情報交換会が8名の環境記者の出席のもとで行われました。今回は従来にも増して幅広い内容での意見交換が行われ、改めて環境をテーマとした問題の広さ、奥深さについて考えさせられました。

第一京浜国道沿いに植えた花の管理をボランティアで行っている真壁さん。五反田駅周辺を綺麗にしている方がお二人で、福田さんは大学の仲間や地域の方たちと一緒に、畔柳さんは個人で歩道のごみ拾いをしています。志賀さんは平塚二丁目町会の副会長兼花と緑の部長として活躍、街の美化に努めています。



企業で環境活動全般の業務に携わっている小野さんは区内の公園を綺麗にしています。また企業内で省エネに知恵を絞っている辻本さん。若井田さんは区の青少年委員としても活躍しています。福島県に農場を持ち、放射能被害を受けている新居崎さんの深刻なお話もありました。みなさんの日々の活動が街の環境維持や改善の力になっていると思います。



五反田駅周辺を綺麗にしています

‘五反田綺麗にし隊’は清泉女子大学の学生が五反田駅周辺を綺麗にしようと集まった仲間、五反田商店会の皆さんとともに定期的に清掃活動を行っています。この活動の目的は街を綺麗にすることはもちろんですが、街の人たちに挨拶をしてこの活動をアピールすることです。

花壇にはまたお花が咲きました。そしてタクシー乗り場周辺に多かったタバコの吸い殻が1年前よりも少なくなってきたことを実感できたことは嬉しいことです。



でもまだまだ改善されない問題も多いです。タクシー乗り場周辺の植え込みにはペットボトルや缶・ビン類、お弁当のゴミなどが目につきます。

私たちの活動が少しでも五反田駅周辺の美化につながってくれたらうれしいなと思っています。



神社やお寺でイチョウを見ることが多いと思いませんか?

それには理由があります。イチョウが日本に植えられるようになったのは平安後期から鎌倉時代、中国からお坊さんが持ち込んだものとされています。植えた後、実がなるまでに孫の代までかかるという意味で「公孫樹」とも呼ばれます。長生きする木なので縁起が良いとされ、また大きくなるのが早く立派に見えることも、神社やお寺にふさわしいでしょう。さらに葉っぱには水分が多いため、火事の延焼を防ぐ目的で境内に植えられたようです。

「鴨脚樹」という名前もあり、これは葉の形をカモの足に見立てたものです。「ヤーチャオ」と読み、これが訛って「イチョウ」になったといわれています。街路樹にイチョウ並木が多いのは大気汚染に強いからです。

区内では品川寺や光福寺などのイチョウが区指定文化財に認定されています。



品川寺



光福寺

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2011年度 Vol.4

しながわ環境大賞・緑化大賞決定

平成24年2月18日(土) きゅりあん小ホール

しながわ環境大賞と緑化大賞の授賞式が、2月18日(土) きゅりあん小ホールで行われました。

しながわ環境大賞は、環境保全に関する活動をしている団体や個人を顕彰し、区民の環境保全に関する自主的

な取り組みを促進することを目的としています。

緑化大賞は、地域の環境や景観の向上に資するような優れた緑化を行なった方々を顕彰し、区民の皆様の緑化に対する意識の向上を図ることを目的としています。



しながわ環境大賞



緑化大賞

しながわ環境大賞受賞者の活動をご紹介します

●株式会社 日立ソリューションズ 「ジュネーヴ平和通り歩道清掃活動」



2003年10月に路上歩行喫煙禁止条例が適用され、「捨てる人ではなく、捨てる人へ」ということで参加者を募って清掃活動を開始しました。

ごみは街路樹の植え込み付近に多く、GWや年末年始などの休みの後に量が多くなります。従業員はもとより、近隣や自治会の方々にも参加を呼びかけて活動を行っていますが、今後は参加者を増やし、継続して地域の皆さんと連携していくことが重要であると考えています。

●山中こどもエコクラブ 「親子エコ活動」



「楽しく、美味しく、自然に親しみ、環境にやさしい活動を」の呼びかけのもと、第二校庭、屋上菜園、学校周辺を中心に、毎月1回土曜日の午前中、四季折々の活動を通して身近な自然を味わいながら、環境学習に取り組んでいます。低学年を中心に、毎回70～80名の参加者で盛り上がっています。子どもはもちろん、保護者にとっても自然や環境について学ぶだけでなく、学校を知る良い機会になっています。

●西中延三丁目町会 「地域の資源回収活動」



活動は町会会館を建てたいという夢を持って、20年ほど前にスタートしました。毎月3回、朝7時から9時まで3台のリヤカーが各家庭を訪問する、あるいは回収場所に持ってきていただくなどして集めています。この活動を通じて、ごみを出さないという意識が高まり、町会の団結や町会行事の活性化につながり、住みやすい町会になってきています。また、去年は収益金の一部を東日本大震災の義援金にしました。

環境賞

株式会社 ニコン 大井製作所「省エネルギー活動、地域活動」、平塚二丁目町会「花いっぱい運動」、ハツ山パークフラワーグループ「みどりと花のボランティア ハツ山パークフラワーグループ」、品川区立浜川中学校「地域環境整備活動」、品川区立清水台保育園「エコチェック」、谷千枝子「地域清掃活動」

緑化大賞受賞者の活動をご紹介します

●積水ハウス株式会社（事業者） 「御殿山プロジェクト」



御殿山の原風景の再生、広域な緑軸の形成、「3本は鳥の為に、2本は蝶の為に」という当社の街づくりの理念である「5本の樹」計画を基にプロジェクトを進めてきました。地域の生態系に組み込まれるように在来種を中心とした植栽を行い、実際に多くの蝶や鳥の飛来につながっています。地域の皆さんに散策していただけるスペースを設け、都会の中ではなかなか見ることが出来ない風景をご覧いただける事と思います。

●ソニー株式会社（事業者） 株式会社 日建設計（設計者） 「ソニー株式会社ソニーシティ大崎」



都市の平均気温の上昇は大きく、建物や道路

などが熱を溜めることが大きな原因といわれています。当プロジェクトは、ビルを冷やす新技術の導入などで歩行域を涼しくし、周辺の緑地がクールスポットになり、建築計画全体が大きな樹木のようにするという夢をもったものです。

当ビルは森をイメージした植栽、ビル入口の大型エントランスで季節の樹木の紹介、屋上緑化に野草マットの使用による生物多様性への配慮などを行っています。

緑化賞

パークハウス品川中延管理組合「パークハウス品川中延」
東五反田二丁目第2地区市街地再開発組合「東京サザンガーデン」

スズメとカラス

スズメとカラスは昔話や童謡に登場する、人にはなじみが深い鳥です。近頃スズメは生息数を減らし、カラスはごみをあさる迷惑鳥となりました。その原因はどちらも都市化にあるようです。

さて植物では、スズメとカラスの名のものを何種類か見ることができます。その一番はカラスノエンドウ！マメ科で、春先に濃いピンク色の花を咲かせます。そしてスズメノエンドウもあります。こちらは小さな、小さな薄紫の花です。カラスは大きい、スズメは小さいという形容が名前の由来のようです。

カラスノエンドウはとてもボリュームがあります。巻きひげを伸ばして、たがいに絡みつき、上へ上へと延びていきます。この群落は、たくさんの株がひしめき合っているのではなく、たった一株です。支える根は、地上の部分の繁り具合に比べると、それほど長くはありません。芽生えの季節「春」は生きものを育むのに十分な雨を降らせるようです。



(左)カラスノエンドウ：別名ヤハズエンドウ 花盛り
(右)植え込みにみつけ「まっくろ黒の実」

スズメノエンドウを近所で初めて見つけた時、うれしくて小躍りしました。しかし芝生の中だったため

草刈りされてしまい、次の年はなくなりました。しかし庭にはたくさんの芽生えがありました。鳥たちが種まきをしていたのです。

花や姿の大小の違いだけではなく、実った時もそれぞれ特徴があり、楽しめます。カラスノエンドウのさやが真っ黒！羽の色と同じです。それでカラスなのでしょう。スズメノエンドウは、まるでアルファベットの「B」のようで、さやのマメは2個、実った時の色は茶色です。



(左)スズメノエンドウの花

(右)同 熟した実

「カスマグサ」というカラスノエンドウとスズメノエンドウの中間形があります。

花色はカラスノエンドウと同じですが、草丈は相当小さく、花もかわいい大きさです。名前はカラスの「カ」スズメの「ス」、間の「マ」に「クサ」ですから、野外でカラスノエンドウとスズメノエンドウの両方を見つければ、カスマグサもあるに違いないと、きよろきよろ探しまわる人を見かけます。これは大変な思い違いで、交配種ではありません。

カラスノエンドウは植え込みや街路樹の周囲でみかけます。この場所には、ほかにもいろいろな草の芽生えがあります。雑草、迷惑な草と退けないで、観察してみましょう。

(環境カウンセラー 倉田智子氏提供)

品川区の桜



大井水神公園



かむろ坂



東品川海上公園

品川区には季節の変化を感じられるところや自然を楽しめる場所がたくさんあり、これからの季節にはいろいろな花々が‘私たち’を見てくださいと言わんばかりに咲き誇ります。ご家族で各地にお出かけになってはいかがでしょうか。

今回は最も親しみのある花、桜をご覧ください。また皆さまがお撮りになった今年の区内の桜の写真がございましたら、当センターまでお送りください。ホームページに掲載させていただきたいと思います。写真は昨年撮影したものです。



しながわ区民公園



目黒川



しながわ中央公園



立会道路

私たちの活動紹介 古布の七変化～洋服から小物まで～

私たちのグループ「リメイク‘絆’」は、‘箆笥の肥やし’になっている洋服、着物等を利用してコートやバッグなどを作っています。



‘箆笥の肥やし’は思いのほか多くあり、いづれも父母や祖父母の思い出が

いっぱい詰まった品物です。皆様方のお家にもあると思いますが、いかがでしょう？

そのまましておくのはもったいない、そんな気持ちが私たちをこの活動に駆り立てました。「捨てないで、生れ変って、また役に立つ」を活動テーマとして、12人の仲間が月2回集まって制作を楽しんでいます。



作品の一例をご紹介します。

- ・羽織からコートなどの衣類（私たちが着ているものはいずれもリメイクしたものです）
 - ・着物や洋服、帯からバッグや帽子など
- 活動を始めて6年になりますが、これまでに作った品数は数百点にも及んでいます。これらの作品をバザー等で販売し、収益金から制作にかかった最低限の材料費を引いた金額を東日本大震災の被災地などに寄付することにしています。



「もったいない・・・」の気持ちを大切に

リサイクルショップ

「リボン」をご存知ですか？

「リボン」はNPO法人「エコタウンしながわ」が品川区の協力を得て運営しているリサイクルショップで、旗の台店と大井町店があります。



旗の台店

「ものを大切に使う」をテーマに

洋服、バッグ、雑貨や家具など、ご家庭にある品物の買い取りや委託販売をしています。

「捨てるのはもったいない」、「ご縁があれば他の方に使っていただきたい」、そんな品物がありましたら「リボン」をご利用ください。



お買い得品や掘り出し物をいろいろと揃えています。

「リボン」では、みなさまのご来店をお待ちしています。

詳細はそれぞれのお店にお問い合わせください。

旗の台店 03-5498-7803

大井町店 03-5742-6933



大井町店

環境学習講座のご案内 皆さまのご応募をお待ちしています

●さき布から「ぞうり」を作ろう (中学生以上)

家庭にある古布を使って「オリジナルぞうり」を作ります。

(2日間で完成します)

日時/4月29日(日)、30日(休)

13時30分~16時

●林試の森公園で自然のふしぎ発見! (小学生と保護者)

この木はどこから来たの? 水はいろいろな形に変わるなど、公園内で自然のふしぎを学びます。

日時/5月13日(日)14時~16時

●カナダ極北の大自然の動物とイヌイットの人たち (一般)

地球温暖化の影響で野生動物の生態が変化しています。極北に住む人々と動物の話です。

日時/5月20日(日)14時~16時

●緑のカーテン作りを学ぼう (一般)

ゴーヤとフウセンカズラを使って緑のカーテン作りを教わります。配布された種を持ち帰り、自宅で緑のカーテンを作ります。

日時/6月3日(日)14時~16時

●エコロジー社会だった「江戸」の市民生活の実情を探る (一般)

江戸のエネルギー使用、衣食住、ごみ処理など、江戸時代の生活はこのようでした。

ご好評につき、昨年に続き開催

日時/6月9日(土)14時~16時

●地球温暖化とエネルギー問題 (一般)

世界的に大きな問題となっているテーマについて、分かり易く解説します。

日時/7月13日(金)14時~16時

夏休み前 小学生向け環境講座

●身近なもので作ろう「世界でひとつの立方体万華鏡」(小学生)

あまり目にすることのない箱型・立方体の万華鏡です。オリジナルデザインを楽しまししょう。



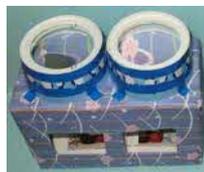
日時/6月17日(日)

14時~16時

●牛乳パックで立体メガネを作ろう (小学生)

牛乳パックを切り抜いてレンズをはめ込み、2枚の写真を見ると3D画像が見られます。

日時/6月24日(日)14時~16時



●風力発電機を作ろう (小学生)

ペットボトルで作った羽根車に風を吹きつけて発電機を動かし接続したモーターを回します。再生可能エネルギーの風力発電の工作と実験をします。

日時/7月8日(日)14時~16時



本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

講座の開催日、名称等はいずれも予定です。内容、応募方法等については「広報しながわ」、「品川区環境情報活動センター」のホームページにて後日掲載します。

しながわECOだより2011年度Vol. 4

発行：品川区都市環境事業部環境課

編集：特定非営利活動法人

エコタウンしながわ

発行日：平成24年3月14日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/